



# 青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323  
URL https://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2022年7月29日

## 問屋町内交通死亡事故ゼロ9千日達成

青森交通安全協会問屋町支部並びに当組合が取り組んできた「問屋町内交通死亡事故ゼロ推進運動」が、2022年6月18日(土)をもって死亡事故ゼロ9千日を達成した。今から36年前の1986年7月6日からスタートした死亡事故ゼロ運動は、これまで3度ほど千5百日達成を目前にして記録がストップ。4度



交通死亡事故ゼロ推進運動 決起大会

7月6日からスタートした死亡事故ゼロ運動は、これまで3度ほど千5百日達成を目前にして記録がストップ。4度達成を祝うと共に1万日達成を達成した。6月20日(月)には青森交通安全協会問屋町支部の第49回定時総会と合わせ、9千日



工藤支部長(右)が表彰状受贈

賞状と副賞が手渡された。総会終了後に開催された決起大会では、西理事長のあいさつの後、青森警察署の田中交通官と青森交通安全協会の沼田会長から祝辞が寄せられた。つづいて、問屋町支部が青森警察署と青森交通安全協会の連名で表彰され、次に会

員を代表して、工藤支部長が「交通ルールを遵守し、死亡事故ゼロ1万日達成を目指す」と宣誓。青森警察署による交通安全講話も行われた。このほか9千日達成記念事業として、会員事業所に問屋町オリジナルロゴマーク入りの紅白一口まんじゅうを従業員の数分付し、記録達成をみんなで祝った。



オリジナル一口まんじゅう

### とんやまちフラワースナップ

組合員の花壇を紹介するコーナー「とんやまちフラワースナップ」を昨年度に引き続きお送りする。今年度1回目に紹介する組合員は大青工業(株)。同社では今年度の3月から取り組み始めた「生き生き働ける職場づくり」の一環として全社で景観整備を進めていくこととし、職員全員で花苗を植えた。同社建物横にある花壇にはラベンダーやインパチェンス、マリーゴールドなど8種類の花苗が植えられ、玄関にも訪問客の目を楽ませるよ色とりどりの花苗を植栽したプランターが設置されている。花の管理を担当している総務部の下山氏は「仕事に息詰った時には花摘みや水やりなどで気分転換でき、心身ともにリフレッシュされ、良い影響をいただいています」と笑顔で話す。

今年度の3月から取り組み始めた「生き生き働ける職場づくり」の一環として全社で景観整備を進めていくこととし、職員全員で花苗を植えた。同社建物横にある花壇にはラベンダーやインパチェンス、マリーゴールドなど8種類の花苗が植えられ、玄関にも訪問客の目を楽ませるよ色とりどりの花苗を植栽し



大青工業の花壇

問屋町版インターネットシッピングの実施についてなど承認第3回理事會

6月27日(月)に第3回理事會が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、新型コロナウイルスナウクン職域追加接種の実施やリサイクル回収収益金の寄付、北日本流通ヴァン(株)の2021年度決算などについて報告した。

主な案件審議は次のとおり。
案件一・事業委員会からの意見について
案件二・労務対策委員会からの意見について

組合員昼食會

組合員昼食會が6月2日(木)に問屋町會館2階大會議室で開催され、組合員ら55名が参加した。

はじめに、2022年4月1日から中小企業も対象になり施行開始された改正労働施策総合推進法(パワーハラスメント防止法)について、青森働き方改革推進支援センターの石戸特定社会保険労務士が説明した。

つづいて、三井住友海上火災保険(株)青森支社の吉田支社長代理が、アルコールチェックの義務化について解説。同

案件三・環境対策委員会からの意見について
案件四・問屋町版インターネットシッピングの実施について
案件五・新規組合員の加入時期及び組合員施設の賃貸について

案件六・組合員の組織変更に伴う出資金の承継について
案件七・組合員跡地買取資金の借換について
案件八・退職慰労金の支給について
案件九・2022年度の役員報酬について

案件十・2022年度第4回理事會の日程等について
理事會終了後には、青森問屋町配送(株)の第42回定時株主

制度は、2022年4月から道路交通法施行規則が改正され、運送業者(緑ナンバー)に義務付けられている運転前後のアルコールチェックが、一定台数以上の社用車を使用する事業者においても義務化されることになったもの。10

月からはアルコール検知機器の使用が求められるようになる。企業は対策を講じる必要がある。
次に、青森県企画政策部の美濃谷次長が、あおりり若者定着奨学金返還支援制度について紹介した。

最後に高度化事業について、事務局の五十嵐総務課長代理が説明。同制度は、卸団

總會が開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。

會員間の親睦交流をさらに促進

同友會第43回定時總會

青森問屋町経営同友會の第43回定時總會が6月10日(金)にホテル青森で開催され、會員21名が出席した。

總會では柳谷会長が議長に選任され、審議の結果、提出案件が全て原案どおり承認された。

今年度の同會は、コロナウイルス感染状況を注視しながら會員交流会や組合レクリエーション受託事業などに一層精力的に取り組み予定。また、

地などに所属する組合員(中小企業に限る)が低利かつ長期に資金融資を受けられる制度融資。中小機構(国)と都道府県が連携し、資金融資に加え、経営アドバイスなどで企業を支援する。



組合員昼食會

6月28日(火)に今年度1回目の献血が問屋町會館前にて実施された。コロナ対策を講じた移動献血バスで行われ、組合員従業員ら26名が献血に協力した。

献血で社会貢献

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で全国的に献血バスの受け入れ先となる企業・団体が不足している。さらに青森県は、2022年4月

から5月の期間、献血バス一稼働当たりの献血者数が全国最下位という厳しい結果となっている。こうした献血協力者の減少により、医療機関



同友會 第43回定時總會

會員間の親睦交流をさらに促すため、アプリ等を活用した双方向の會員間情報交換ツール導入を検討していくこととした。

總會後には懇親會が開催され、ダイエツトグランプリ2022の体重測定や全参加者による一言スピーチなども行



講演會の講師を務めた中村社長

われ、交流を楽しんだ。
また總會に先立ち、同會會員であるコクサイ通信特機(株)の社長であり、全国有数のドローンパイロットとしても活躍する中村真氏による「ドローンの活用について」をテーマとした特別講演會も行われた。



移動献血バスで献血

で病気の治療等に不可欠な血液製剤の安定供給に支障をきたすことが懸念される。
献血は気軽にできる社会貢献活動としてSDGs達成にもつながることから、組合では引き続き献血活動への協力を積極的に呼びかけていく。

「生きる」を創る。

**Aflac**

★青森総合卸センター組合員様は、『集団割引』が適用！  
⇒がん保険も医療保険も割安な保険料でご契約頂けます。

◆お問い合わせは『青森総合卸センター総務部』  
・・・または、直接『(株)RAB企画・保険部』まで。◆

〒030-0113 青森市第二問屋町3丁目2-35  
株式会社RAB企画 保険部  
【電話番号 017-739-1674 (保険部直通)】

保健大生が組合員企業の健康づくりを調査

青森県立保健大学では昨年度に引き続き、「問屋町健康調査実習」を実施した。6月2日(木)と6月7日(火)の2日間、同大学の学生がチームを組んで組合員企業を訪問し、生活習慣や健康のために気をつけていることなどについて企業の健康づくり担当者らに聞き取り調査を行った。同調査は大学の授業の一環で行われ、調査結果はとりまとめ報告会にて発表するほか、寄せられた声を行政に伝えるなど、地域の健康づくり推進を支援する。



大学生が組合員に聞き取り調査

業務報告

6月 2日▽組合員昼食会 7日▽第1回集団健康診断 (9日)

- 9日▽第3回問屋町合同清掃 10日▽パソコンリサイクル回収収益金寄付
▽第1回事業委員会 13日▽問屋町支店長・所長連絡会第1回幹事会
15日▽金融審査会 17日▽問屋町花の植え方教室
18日▽問屋町内交通死亡事故ゼロ9千日達成日
20日▽安協問屋町支部第49回定時総会・問屋町内交通死亡事故ゼロ推進運動決起大会
21日▽第1回労務対策委員会 22日▽第1回税務研修会
22日▽第1回環境対策委員会 26日▽第1回問屋町緑のボラ
27日▽第3回理事会 28日▽第1回献血
3日▽新入社員研修フォローアップ講座
7日▽ベテラン社員能力向上研修①
8日▽ベテラン社員能力向上研修②
16日▽事例で学ぶ職場のハラメント対策
21日▽成功率がぐんと伸びたオンライン商談のコツ
23日▽話のプロが教える会話が弾むコツ

経済雑感

第二七回

（株）商工組合中央金庫 青森支店 支店長 長谷川 正治

第63弾となる今回の経済雑感は、(株)商工組合中央金庫青森支店の長谷川支店長にご寄稿いただいた。

2020年10月に青森支店に着任し、間もなく丸2年を迎えようとしています。(株)青森総合卸センター様には平素、商工中金の業務運営に並々ならぬご理解・ご協力を頂戴しておりますこと厚く御礼申し上げます。さて足元の経済情勢に目を向けますと、2年を超え

原材料高が進んでいます。また、ウクライナ情勢により加速した原油の高騰、食料品の不足が事業者や消費者のコスト高にも繋がっております。コロナで大きく影響を受けられた宿泊、飲食を中心とするサービス業から、足元では製造業の方々まで、景況の悪化が懸念される状況でございます。



（株）商工組合中央金庫 青森支店 支店長 長谷川 正治

また、アメリカでFRBが予測を上回るピッチで金利の引き上げを実施するなど、海外の金利が押し上げて上昇する中、日本においては金融緩和を続けておりますので、当然のことながら、海外との金利差が拡大して円安が進み、中小企業の皆さまのエネルギーコスト、仕入れコストの上昇が続く状況にあります。ここ数年、こういった予測不可能な変化のなかで中小企業の経営環境は様々な課題に直面しているかと思えます。商工中金としましては事業性評価を通じて、様々な経営課題に本業支援、経営改善支援といった伴走支援を引き続き継続、強化してまいります。一方、近い将来である2030年を見据えた際に必ず訪れる環境変化が2点あります。少子高齢化の進行による人口減少問題と「サステナビリティへの取組み」です。中小企業はこの社会課題に対して、組織的・継続的に取り組んでいく必要があると考えます。規模拡大を前提とする経済発展が国内では限界をむかえ、人口減少や環境負荷軽減等を前提とする持続可能なシステムへの転換を図ることが課題となっております。また、中小企業分野においても、DXや業務の自動化、脱炭素をはじめとする環境対応、人的資本・知的財産の有効活用、外需の取り込み、業界再編といった課題を、持続的成長につなげる取組みが求められています。商工中金では「これからの時代・社会・地球」の望むべき姿を念頭に新しい企業理念を制定いたしました。次回は新たな企業理念と今年度から始まる3カ年の中期経営計画をご紹介します。中小企業の皆様の課題解決に向けた取組みをご案内させていただきます。(つづく)

海産乾物問屋

昆布を食べよう

株式会社 丸毛最上商店

青森市問屋町二丁目14番22号 TEL 017-738-5891 FAX 017-738-5895 http://www.mogami.biz

本物のおいしいも、茶畑から。

お茶 伊藤園

青森支店 〒030-0113 青森県青森市第二問屋町3-6-35 TEL.017-739-5711 FAX.017-739-9742



営業用食器・厨房設備・器具専門商社

Kitchen and Table Communication

PRIMO Co., Ltd.

株式会社プリモ

青森店 青森洋食器

〒030-0113 青森市第二問屋町3丁目3-8 TEL.017-739-9355 FAX.017-739-9359

### 問屋町花いっぱいプロジェクト

組合では問屋町花いっぱいプロジェクトと題し、花を活かした様々な取り組みで町内を明るく彩り、行き交う人の目を楽しませている。

1つ目は、今年で6年目となり、この季節の間屋町の風物詩となっている大通り歩道へのフラワーボックスの設置。問屋町オリジナルデザインの木製プランターに色鮮やかなピンクの花苗が植えられ、50箇所計100基設置した。日常的な水やり等のお世話は近隣組合員が担う。2つ目は花の植え方教室。6月17日(金)に開催された同教室には組合員11名が参加した。講師は問屋町の景観整



フラワーボックスに水やりする組合員



花の植え方教室



問屋町緑のボランティア隊

備アドバイザーであり、フラワーボックスのデザイン・作成を担当した鈴木野波氏。プランターへの寄せ植えの仕方や日々の管理方法について学び、思い思いに寄せ植えしてフラワーボックスを完成させた。持ち帰ったフラワーボックスは自社玄関前に置かれ、問屋町の景観向上に役買っている。

3つ目は問屋町緑のボランティア隊による「花苗植栽」。6月26日(日)に開催され、隊員やそのご家族34名が参加し、問屋町東口及び第二問屋町北口にマリーゴールドやペコニア等の花苗を千二百ポツト植栽。今年は花苗の数を大幅に増やしたため、ボリューム感あふれる花壇が完成した。

参加した隊員は「自分で植えた花壇は愛着が湧き、目にすることで日々元気をもらっている」と語った。

### 団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、鴨沢塗料(株)の谷口支店長にお話を伺った。

同社は八戸地域最初の塗料専門販売店として昭和25年に創業。青森県内と岩手県北で塗料全般のほか、接着剤、ワックス、塗料関連機器などを取り扱っている。

「当社は、多くのお客様との信頼関係を大切にし、おかげさまで今年創業72年を迎えました。塗料は身の回りのほとんどのものに使われており、役割は大きく3つあります。自然現象や悪環境による腐食や劣化を防ぐ「保護」、物品を美しく見せたり周辺環境との調和を図って快適性や

資産価値を上げる「美粧」、遮熱・結露防止・防かび・蛍光など特別な価値を与える「機能」です。最近抗ウイルス抗菌塗料など良い機能の付いた塗料も発売されているのでお話し頂きたいです。また業界の現状としては、商材の値上げラッシュが続いていて、材料費、運賃の高騰に加え、商品によって入荷が困難なものもあります。青森支店には調色工場を併設しており、色専門30年のベテラン調色師が在籍しています。どうしても天気に左右される商売になりやすいので、お急ぎの場合など見本を持ってきていただければそれに



鴨沢塗料(株) 支店長 谷口 一男 氏

合わせて塗料を作ることができません。是非こちらをご利用お待ちしております」とアピール。「ご自身の今後の目標について何うと「社員にはオールラウンダーになってほしい」と思っています。今はお客様ごとに担当者が決まっていますが、誰でも同じ対応ができるようになって、お客様にいつでも同じサービスを提供し、誠心誠意、一緒に現場を作っていくということが青森支店としての目標です」と力強く語る。

「趣味はバスケットボールです。学生時代以来十数年やっていなかっただけですが、三十代で体重が増えてしまった頃に、友人と再会し誘われたのをきっかけにまた始めました。今は膝を痛めてしまいましたが、好きなのでやめられません。好きな言葉は「朝礼や会議の時など、感謝しましょう」と常に話しています。日々過ごしていると感謝する気持ちや忘れて、当たり前と思うようになってきます。感謝ができれば相手に対しても優しくできますし思いやりも出てくると思うので、今後も感謝の心を忘れずに仕事をしたいと思っています」と語った。

(52歳)

### 編集後記

問屋町内交通死亡事故ゼロ推進運動が、ついに9千日を達成しました。安協問屋町支部及び組合員企業の皆さん、交通安全のご協力ありがとうございました。次は目標はいよいよ1万日。大台達成に向けてこれからも地道な交通安全活動を継続していきます。この交通死亡事故ゼロ推進運動、今では順調に継続していますが、実施当初は鬼門の千五百日をなかなか超えられず3度の交通死亡事故が発生しています。団地内で発生した最後の交通死亡事故が1997年の9月。ちょうどその年に入社して新入社員だった私は、現地で大きく大破した車を見てびっくりしたことを今でも覚えています。凄惨な事故が今後も起きないことを切に願います。交通事故及び死者数について全国のデータを見ると、組合設立の1997年は事故件数52万1千件、死者数1万3千件でした。以後、交通事故件数は多少増減があるものの2004年には事故件数のピークとなる95万2千件を記録します。また交通事故による死者数のピークは1970年の1万6千件です。2020年の事故件数は30万5千件、死者数は2万6千件。ピーク時に比べると交通事故は7割減、死者数は8割超の減と、近年の自動車はエアバッグやアシスト機能などの安全性が格段に向上していますし、警察等の尽力で安全運転に対する意識も向上しています。逆に最近多い事故原因は、ブレーキとアクセルの踏み間違いやスマホに気を取られた前方不注意などでしょうか。ちょっとした気の緩みから大きな事故にならないよう、みなさんも安全運転をお願いします。(小田切)

## 鴨沢塗料株式会社 青森支店

日本ペイント 特約店

- 主要品目  
塗料全般、塗料資材、塗装機、接着剤、各種テープ、溶剤類、他

青森支店 青森市問屋町一丁目12-4 TEL (017)738-1771(代)  
E-MAIL: aomori@kamosawa.co.jp FAX (017)738-1772



## 積水ハウスグループ

### 積和建設の在来木造住宅新築 積和建設の耐震リフォーム

戸建・マンション・店舗  
一般木造・鉄骨造・コンクリート造・その他

積和建設東北株式会社 青森事業所  
〒030-0131 青森市問屋町1丁目13-10 TEL 017-764-3622